

お子さんの
安全基地に
なっていますか

やる気・自律心・コミュニケーション力を育み
楽しい学校生活を



石川県教育委員会

監修 東京大学大学院教授(発達心理学) 遠藤利彦

小学校生活が始まりました。子供たちが楽しく学校生活を送るためには、

☆ 学習への興味・関心をもち、最後までやり通す力

☆ 自分の気持ちをコントロールして、仲間と協力して学習に取り組む力 などが大切です。

これらの学びの態度は、社会を生き抜くために必要なやる気やコミュニケーション力、自律心などの「非認知的能力」と深く関係しています。学力を身につけることと同じように、こうした力を家庭でも育てていくことが大切です。

楽しい学校生活

新しいことを
進んで学ぶ

初めてのことに
チャレンジ!

みんなで
力をあわせて
やり遂げる

友達と
仲良く遊ぶ



学習への意欲、
興味・関心を持つ

粘り強く、
最後までやりとおす

やりたいことを我慢する
など自分の気持ちを
コントロールする

仲間と協力して
取り組む

自分で考えて
行動する

学びの態度



協調性

やる気

自律心

自制心

好奇心

非認知的能力

柔軟性

やり抜く力

思いやり

コミュニケーション力

計画性

家庭

子供のやる気や自律心などの基盤をつくるのは 「安全基地」

近年の国内外における心理学の専門的な研究を通して、
子供のやる気や自律心を育むには、家庭での子供との関
わり方が重要な役割を果たすことがわかってきています。
大切なことは親が子供の「安全基地」であることです。



遠藤先生

では、「安全基地」とはどのようなものでしょうか？

P3,4



お子さんのことで気になることはありませんか？



嫌なことは
やりたがらない

何に対しても
消極的

宿題の取りかかりに
時間がかかる



P5,6



友達との
トラブルが多い

一緒に遊ぶ
友達がいない

自分の思いを言葉で
うまく伝えられない



P7,8



約束やルールを
守れない

ランドセルの中が
ぐちゃぐちゃ

ゲームばかり
している



P9,10

不安をいつでも受けとめ、安心させて

Point

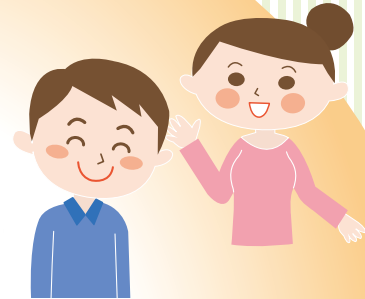
子供が元気なとき

自分の意志で行動する様子を、
少し離れたところから見守りましょう

安全基地があることで、安心して外へ出ていこうとします。
あえて子供の活動に踏み込まず、応援してあげることが、子供の
挑戦をあと押しします。



応援しているよ



安全基地

Point

子供が不安を感じているとき

子供の心にしっかりと寄り添い、
心(感情)の燃料補給をしましょう

優しくなぐさめてもらうことで、自分は親に守られていることを
実感し、崩れた感情(不安な気持ち)を立て直すことができます。



つらかったね
もう大丈夫だよ

非認知的能力の基盤をつくるのは「安全基地」

子供は恐れや不安を感じた時、身体も心も特定の人にくっつくことで、安心感を得ることが出来ます。その経験が日常繰り返されることで、「安全基地」で自分は必ず守ってもらえる、何があっても大丈夫という、確かな見通しをもてるようになります。子供は、徐々に一人でいろいろなことに挑戦し、成し遂げようとしています。自律心の発達です。

また、「安全基地」で恐れや不安な気持ちに寄り添って共感してもらうなかで、今度は自分が他の人に共感する気持ちや思いやりを抱くことができるようになります。

非認知的能力の基盤をつくるのは、親はもちろんのこと、祖父母や学校の先生など身近な人が「安全基地」となることなのです。



遠藤先生

とくくれる居場所が安全基地です



ついつい先回りをしていませんか？

子供のシグナルに敏感になり過ぎると、先回りをしたり、後ろをついてまわったりすることが多くなってしまいます。子供のためによかれと思ってとる親の行動が行き過ぎると、子供の自己の発達に影響を与えかねません。

なぜなら、子供が不快な気持ちになったり、困ったりすることが少なくなり、自分の不快な状況、困難な状況を何とかしたいという気持ちや、それに基づく自発的な行動が経験されなくなる可能性が高くなるからです。結果的に自律心の発達の芽が摘みとられることになってしまうのです。子供が適度にフラストレーションを経験し、それを子供自身の力ではね返す体験をさせてあげることも親の重要な役割なのです。

POINT

乳幼児期から子ども期全体を通して親が「安全基地」であることが大事です

不安や恐怖を感じた時に親がしっかりと抱きしめてくれるという経験を、乳幼児の頃から積み重ねることによって、親との安定した絆が育まれます



学習の習慣づくりを

- 子供が宿題に困っていたら、一緒に取り組み、「できた」喜びを共有しましょう
- テストなどの結果よりも、子供が頑張っていることをしっかりとほめましょう

これもできたね。
すごいな〜。

この前より、上手に読める
ようになったね。
音読を頑張っているからだよ。



POINT

ほかの子供と
比べるのではなく、
その子自身の進歩を
ほめましょう



お手伝いを通して

- 毎日できるお手伝いを子供と一緒に決めましょう
- お手伝いができたら、感謝の気持ちを言葉で伝えましょう



POINT

自分にはできる
ことがあるという
自信や、家族に認めて
もらえる喜びを
実感します

〇〇ちゃんが手伝っ
てくれて、お母さんうれしいな。
たすかるよ。

〇〇ちゃんのおかげで、
玄関がすっきりして気持ち
がいいね。ありがとう。



家庭で



毎日の生活の中で

- 子供のよいところを見つけ、ほめましょう

例えば

- ・ 弟や妹にやさしく接していた
- ・ 朝、1人で起きることができた
- ・ 自分から習い事の準備ができた
- ・ 嫌いで食べられなかったものを食べる
ことができた など



POINT

その時、その場で
ほめましょう



自分からやる気を起こして 頑張っていることをほめましょう

子供が頑張っていることに対して、たまには、ごほうびをあげることも悪いことではありませんが、子供が自分からやる気を起こし、夢中になって頑張っていることに対して、言葉でほめることを心がけましょう。

ほめられることで自信がつき、さらに難しいことや新しいことにもチャレンジしようとする意欲が高まり、子供の興味や関心の幅が広がります。



していることを認め、ほめましょう

やる気・やり抜く力が
アップすると・・・



- ★ 課題に集中して取り組む
- ★ 作品やプリントをしあげる



- ★ 一生懸命、歌をうたう・体を動かす



学びの態度



- ★ 積極的に発表する

- ★ 顔をあげて、先生や友達の話聞く



- ★ すすんで"係活動"をする

親からの温かいエールが挑戦する意欲を高めます




遠藤先生

小学校低学年ぐらいの子供に対しては、大人目線からするとほんのささいなことでも、また他の子供と比べて必ずしも高いレベルではなくても、その子供の中で少しでも進歩があったことをちゃんと認めてほめてあげたいものです。仮に進歩が認められないような場合でも、それが、子供が頑張った結果である時には、その一生懸命頑張ろうとした気持ちを積極的に評価してあげましょう。それは、「安全基地」としての親からの温かい応援のエールを、子供がその背中ですっかりと感じとることにつながります。

そうした温かい雰囲気の中で、子供が、続けて頑張っていけば、いつもとは限らなくてもいずれは、確実に成果が得られるのだという感覚を、この時期にしっかりと身につけておくことが、将来に向けてとても大切なことなのです。それと、子供が何かがちゃんとできて、そのことをほめる場合には、元々、生まれつき才能があるからできたというような言葉かけをするよりは、やはり、頑張ったからこそできたのだということを強調して伝えるべきかも知れません。その方が、難しいことにも物怖じせず^{ものお}に挑戦しようとする意欲を、子供の中により豊かに備えさせるということが知られています。

子供との会話を

- 子供が興味や関心を持っていることに親も関心を持って、会話を楽しみましょう
- 会話を通して、子供の思いや考えを理解し、受けとめてあげましょう

 POINT

親が聞き役になることで、子供が「心の窓」を開くようになっていきます。


〇〇ちゃんはどんな虫が好きなのかな？

〇〇ちゃんはどう思ったんだね。



友達とトラブルになった時は

- 子供の話をしっかりと聴き、どうすればよかったのか一緒に考えましょう
- 注意や禁止の言葉は、子供の話を最後まで聴いてから伝えましょう

 POINT

注意や禁止の言葉ばかりではなく、子供が自分から話すように促しましょう。


〇〇ちゃんはどうしたらいいと思う？

お父さんに話してくれてありがとう。うれしいよ。



遊びや体験を通して

- 親子で運動や遊び、読書(本の読み聞かせ)、料理などを楽しみましょう
- 美しいものを見たり、聴いたりするなど、親子で感動する体験をしましょう

 POINT

親子で共通の体験をすることで会話が豊かになり、さらに子供の心の世界が広がります。

うあ〜きれいだね!



子供の話をしっかりと「聴く」ことが大事です

親や大人に、最後までしっかりと話を聴いてもらった経験が、「人の話を聴く力」、「話す力」につながります。

低学年では、まだ自分の気持ちをきちんと表すことが十分ではありませんが、親が子供の目を見ながらうなずく、あいづちをうつ、子供が話した内容を繰り返すことで、子供は「ちゃんと自分の話を聴いてくれている」と思えるのです。



キャッチボールをしましょう

コミュニケーション力が
アップすると・・・



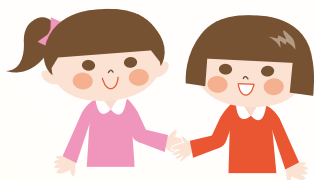
★ 仲間と協力して
掃除や係活動に取り組む



★ グループでの学習活動で
友達の見解を聴く・
自分の意見を言えるようになる



学びの態度



★ けんかをしても
仲直りができる



★ 友達と仲良く遊べる



★ 先生や大人に自分の
気持ちを伝えようとする

自分の思いを言葉にして伝える力を育みましょう



遠藤先生

親子のコミュニケーションにおいて、何よりも重視されなくてはならないことは、それが言葉や気持ちのちゃんとしたキャッチボール（＝対等なやりとり）になっているかどうかということです。どちらかだけが、一方的におしゃべりをするような関係は、子供の発達に対してあまり意味あるものとは言えません。特に、子供の行動に、親がその「いい悪い」を上からただ諭すような働きかけは、ほかならぬその子供自身の気持ちや考えをつぶしてしまうようなことにもなりかねません。

小学校低学年くらいの時期は、とりわけ、子供が自分の心の中にあるものを、しっかりと自分の言葉にして他人に伝える力、つまりは自己主張する力を、豊かに育てあげることが大切なのです。そして、子供からの自己主張を受けて、その子供なりの思いや考えに一定の理解を示しましょう。その上で、それが社会的な基準やルール等からして悪いと判断された場合には、なぜ悪いのかという理由を必ず伴わせて、毅然として親の気持ちを伝えていくことが重要だと言えます。親が「安全基地」としてしっかりと機能している場合、子供は、たとえ親から少々否定的な言葉を投げられても、それを納得して受け入れることができるのです。

家庭での約束ごとを決める

- 例えば、ゲームをする時間や寝る時刻を親子で話し合って決めましょう
- 約束を守ることができたら、しっかりとほめましょう

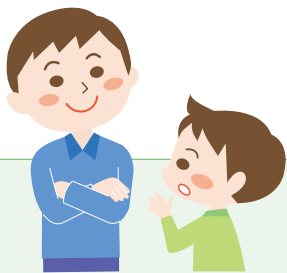


POINT

子供の意見に耳を傾けた上で、親としての適切な判断(基準)を示すことも大切です。

夜、遅くまでゲームをしているとなかなか眠れなくなるんだって。何時までにしようか？

ちゃんと約束を守れたね。えらいよ。



家庭で

約束やルールを守れない時は

- 何が悪かったのか、子供にわかるように伝えましょう
- 悪いことをしたときは、その行動に対して叱りましょう



POINT

子供の存在そのものを否定するような叱り方は、子供の心に大きな傷を与えます。

お友達をたたくことはよくないことだよ。たたかれるととても痛いんだよ。

〇〇ちゃんが壊したのなら、正直に言わないとだめだよ。



自分でできることを増やす

- ランドセルや制服の置き場所を決めて、自分で片付けさせるようにしましょう
- 最初は、子供と一緒に時間割をあわせ、少しずつ子供にまかせましょう



POINT

時間割を確認することで、一日の見通しが持てるようになります。

じゅんじゅんOK!



ほめるだけではなく、必要なときに叱ることも大事です

例えば

・危険なことをしたとき

命に関わるとき

(交通ルールを守らないなど)

・人を傷つけたとき

(いじめ、暴力など)

・人に迷惑をかけたとき

(ものを壊す・盗む、借りたものを返さないなど)



とを決めることから始めましょう

自律心：見通しを持って自分で考え、行動しようとする気持ち

自制心・自律心が
アップすると・・・



★授業中、先生や友達が話しているときは静かに聴く



学びの態度



★自分の机やロッカーの中を整理する



★社会のルールや公共のマナーを守る



★友達の嫌がることをしない（思いやりをもって関わる）



★チャイムが鳴るまでに座席につく



遠藤先生

子供は親の行動を一つのモデルとして学んでいきます

子供が自制心や自律心を身につけていく上で、親が心がけるべきことの一つは、親自身が、日常の様々な生活場面で、それらに関わる行動を子供に対してしっかりと見せるということかもしれません。ものの片付けにしても約束ごとにしても、親が子供にとって信頼できる「安全基地」である場合には、子供は親の行動をただ観察するだけでも、親を一種のモデルとして、自然にそれぞれの場面で自分が何をどうすべきかを学んでいくとされています。

もちろん、ほめたり叱ったりすることも大切です。ただし、その際に注意すべきことは、具体的に何がなぜよいのか、あるいは悪いのかという根拠をちゃんとあげるということです。特に叱る場合には、「まるでダメな子」「何にもできない子」などのように子供の存在を丸ごと否定してしまうような言葉かけはなるべく避けて、あくまでも望ましくなかった行動に対して、それを部分否定するような言葉かけを心がけるべきかも知れません。つまりは、「〇〇ちゃんはちゃんとできる子、いい子だと信頼しているけど、今やったそのことは絶対にダメなことなんだよ」といったメッセージを、子供に対してそれとなく伝えていくということが重要なのです。

今日学校で
がんばったことを
おかあさんに言いたくて、
はしってかえってくるんだよ。
いつも「ゆうま がんばったね。」
って聞きたくて
あせいっぱい
かえってくるんだよ。
(小2)

パパが、
クロールのあよぎかたを
おしえてくれたから、
25mあよげたよ。
ありがとう。
(小2)

おかあさん。
いつもありがとう。
おかあさんは、
なきむしだったほくに、
いつもたくさん
「だいじょうぶ」と
やさしくいってくれました。
(小1)

パパがたまあに
早く帰って来てくれると、
うれしいんだよ。
夕食も、おかずが1びん
ふえたみたいに、
にぎやかで
楽しくなるんだ。
(小2)

おかあさん、
よくおこるね。
おこられると、
からだがぎゅつとなって、
めからなみだができるよ。
でも、そのあと
おかあさんがぎゅうてすると、
ふわふわとなるよ。
(小1)



親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」より

パンフレット検討委員会

遠藤利彦
寺井弘実
山下郁代
小鍛治二美

東京大学大学院教育学研究科教授
金沢星稜大学人間科学部教授・臨床心理士
金沢市立森本小学校長
白山市立千代野小学校教諭

山田明弘
幽経華菜子
篠原恵美子

金沢市立中村町小学校教諭
石川県PTA連合会副会長
石川県教育委員会事務局生涯学習課長
(敬称略)

お子さんの安全基地になっていますか

発行 平成29年3月

発行者 石川県教育委員会事務局生涯学習課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地 TEL076-225-1839 FAX076-225-1838